様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２　年　４　月　１７　日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：２００８　～２００９
課題番号：２０８２００６６
研究課題名（和文）　「砂漠化」における中国モンゴル牧畜民の資源利用と環境政策

研究課題名（英文）　Resource use of Mongolian Pastoralist under ‘desertification’ and Environmental policy in China

研究代表者
児玉　香菜子（ KODAMA KANAKO ）
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：２０４６５９３３

研究成果の概要（和文）：
１．モンゴル牧畜民は「砂漠化」対策において伝統的知識および市場を巧みに活用している。
２．政策立案者とモンゴル牧畜民において「砂漠化」認識とその対策および「牧畜」認識が異なる。そのために、環境保全を企図した政策が必ずしも環境保全につながっていない。こうしたなかで、地方政府は自らのイニシアティブで実情にあわせた政策を実施している。
３．環境政策の立案には地域住民の生業理解と伝統的知識の活用が重要である。

研究成果の概要（英文）：
1. Mongolian pastoralist use traditional knowledge and market under desertification.
2. There are deep differences to recognition and countermeasure of desertification between Chinese policy makers and Mongolian pastoralist. These differences bring unexpected degradation of the environment.
3. It is important to make environmental policy founded on culture and society of local people.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	１，３３０，０００	３９９，０００	１，７２９，０００
2009 年度	１，１００，０００	３３０，０００	１，４３０，０００
総　計	２，４３０，０００	７２９，０００	３，１５９，０００

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：生態移民、市場経済、農耕、災害

１．研究開始当初の背景

研究代表者は中国内モンゴルにおいて、「砂漠化」と改革開放政策と称される脱社会主義政策によって大きく変貌するモンゴル牧畜社会の研究をおこなってきた。中国内モンゴルの「砂漠化」問題は、牧畜民にとってこれまで以上に激しい環境変動が起きていることと、脱社会主義政策による定着化の不可逆的な進行によって、牧畜民による環境変

動への従来の対応が大きく変容させられたことである。こうしたなかで、モンゴル牧畜民は伝統的な資源利用を活かしつつ、独自の砂漠化対策を構築してきたことが明らかになってきた。その一方で、「砂漠化」に対して実施されている環境政策において、環境変動が論じられることなく、「砂漠化」とは土地の劣化であり、その原因はその土地に暮らす人びと、つまり牧畜民にあると考えられている。くわえて、環境破壊の背景には牧畜民の貧困があるとされ、環境政策には、貧困対策として牧畜によらない産業開発という経済開発が盛り込まれている。その結果、環境政策は農耕民的発想による定着化と農業政策を強力に推し進めるものとなっている。その過程で環境に大きな負担を強いる資源利用が拡大しつつある。

２．研究の目的

本研究の目的は、資源利用の視点から「砂漠化」に対してすでに20年以上の経験をもつモンゴル牧畜民の砂漠化対策と、環境政策によるその変容を分析にすることにより、牧畜民の資源利用をいかした形での乾燥地に適した環境政策モデルの構築に資することである。具体的には、以下の2つの課題に取り組む。

（１）「砂漠化」におけるモンゴル牧畜民の資源利用の解明

「砂漠化」状況に対してすでに20年以上の経験をもつモンゴル牧畜民は伝統的な資源利用を活かしつつ、新たな砂漠化対策を構築している。この新しい砂漠化対策を農耕実践と市場利用に着目して明らかにする。

（２）環境政策によるモンゴル牧畜民の資源利用の変容

黄砂や砂嵐が環境問題として注目される中で、内モンゴル全域で環境政策が積極的に推し進められている。環境政策による資源利用の変容を明らかにし、環境政策とモンゴル牧畜民の砂漠化対策の相違、その背景にある砂漠化認識とその対策の相違を明らかにする。

３．研究の方法

本研究の主要な方法は、資料収集、フィールド調査、中国政府の政策立案者、地方政府担当者の聞き取り調査である。

（１）資料収集

モンゴル牧畜民の資源利用、中国の環境政策について、日本と中国において資料収集をおこなう。

（２）フィールド調査

牧畜民の砂漠化認識、砂漠化におけるモンゴル牧畜民の伝統的資源利用の活用、環境政策による資源利用の変容、とくに土地および市場利用の変化、環境政策に対する牧畜民の評価、牧畜文化の変容などについて調査する。

（３）聞き取り調査

フィールド調査結果を比較考察し、政策立案者、地方政府担当者の環境政策の実施状況と現状認識について聞き取り調査を実施する。とりわけ、牧畜民と政策立案者らとの砂漠化認識の相違に着目する。

４．研究成果

研究成果はおおきく下記の２つにまとめられる。

（１）モンゴル牧畜民にとって「砂漠化」とは干ばつや河川水の減少であり、自然災害である。自然災害への対応は従来移動であった

が、定住化が進んだ現在、人と家畜と草原に立脚した伝統的な知識を活用しつつ対応している。そうしたなかで、農耕への依存が拡大している。これまでの天水農耕による食糧生産から灌漑による飼料栽培への転換だけでなく、換金作物の栽培も拡大し、モンゴル牧畜民の農耕とのかかわりが急激に変容、拡大している。灌漑による飼料栽培だけでなく換金作物の栽培も拡大し、モンゴル牧畜民の農耕とのかかわりが急激に変容、拡大している。また、モンゴル牧畜民は市場を巧みに活用し、家畜を売却によって処分することによって自然災害の被害を最小限に抑えるだけでなく、家畜を淘汰している。家畜の経済的な価値の大きさは申請者が当初より注目していたことであるが、牧畜と市場経済の親和性があらためて示唆された。

（２）環境保全を企図した政策が必ずしも環境保全につながらない背景の一つには、政策立案者、地元政府と地元住民において「砂漠化」認識とその対策および「牧畜」認識が異なることがある。それは、モンゴル牧畜民と漢族農民の「緑」と家畜への認識の相違である。だが、これら３者の政治権力構造は垂直であり、地元政府ならびに地元住民は国家政策を受け入れざるを得ない。この政治権力構造が中国における画一的な政策の再生産と継続につながっている。こうしたなかで、地方政府は自らのイニシアティブで補償金の支給、実情にあわせた放牧管理の推進、新たな農地開墾の禁止、河川水による牧地の灌漑などを実施している。地元政府や現地に暮らす人びとの視点を取り入れた環境政策の立案の必要性が改めて明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①児玉香菜子 2009「「緑化思想」とその解体--中国内モンゴルの緑化の現場から」『日本緑化工学会誌』査読無、34-4、610-612

〔学会発表〕（計 9 件）

①Kodama, kanako. Who Needs to Conserve the Environment? A Case Study of “Ecological Migration” Policies in the Ejene Oasis of the Heihe River, China. BOREAS Final Conferences 2009. Arktikum building, Rovaniemi, Finland. 28 October, 2009.　(招待講演)

②KODAMA, Kanako. Mongolian pastoralist’s strategy to combat desertification-A case study of Uushin banner, Inner Mongolia, China. The 16th Congress of IUAES, Kunming, China, 30, July, 2009

③児玉香菜子「モンゴル牧畜民の農耕とその変容」日本文化人類学学会第 43 回研究大会、大阪国際交流センター、2009 年 5 月 31 日

④KODAMA, Kanako. Impacts on Ecological Resources and Social and Cultural Changes of Mongolian Pastoralists caused by `Ecological Relocation'-A case study of the Ejina Oasis of the Heihe River, China-. the 7th International Science Conference on the Human Dimensions of GlobalEnvironmental Change; the International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change , April 4, 2009, the World Conference Centre, Bonn, Germany

⑤児玉香菜子「生态移民所致蒙古族牧民的社会与文化变迁-对中国黑河额济纳绿州的个案研究」首届中国西南文化与环境高级学术论坛、2009 年 3 月 26 日、三峡大学、宜昌市、中国

⑥児玉香菜子「植林ボランティアにおける「緑化思想」とその解体―中国内モンゴル牧畜民の視点から―」日本緑化工学会乾燥地緑

化研究部会、第 15 回シンポジウム「中国乾燥地における緑化技術とその将来」V，2008 年 12 月 14 日、京都大学 (招待講演)

⑦児玉香菜子 「蒙古族牧民対沙漠化治理的対策」中国第 4 届草原文化百家论坛, Hohhot, China 2008.12.10（招待講演）

第 4 届草原文化百家论坛優秀賞受賞(2009)

〔図書〕（計 5　件）

①児玉香菜子 2009「定住モンゴル牧畜民の砂漠化対策―中国内モンゴル自治区オルドス市ウーシン旗の事例から」岸上伸啓編『開発と先住民』明石書店，137-155 頁.

〔その他〕

学会発表⑦の研究発表は第 4 届草原文化百家论坛優秀賞受賞(2009)を受賞している。

ホームページ
http://www.l.chiba-u.ac.jp/ja/instructor/detail/738/

６．研究組織

(1)研究代表者
　　児玉香菜子（KODAMA　　KANAKO）
　　千葉大学・文学部・准教授）
　研究者番号：２０４６５９３３